

上毛

特集 「都市との交流事業」の現場から

上毛町のグリーンツーリズム

3

こうげ町広報 March 2012 VOL.77

CONTENTS

- 町の掲示板 2
- 町の話 9
- know「農」 12
- カルチャー 13
- 町の情報ひろば 14
- 素敵人 16

グリーンツーリズムの
舞台として、
まちの魅力を全国に発信



町の花(春) 桜



町の花(秋) コスモス



町の木 梅

編集 発行 / 上毛町役場企画情報課
〒871-0092
福岡県上毛町大字垂水1-32-11
TEL 0979-723111
FAX 0979-724664

印刷 / 築上印刷(有)

人の動き

1月31日現在

- 人 口 8,041 (+4)
- 男 性 3,800 (+6)
- 女 性 4,241 (-2)
- 世帯数 3,084 (+3)

参考

平成17年10月11日
合併時
●人 口 8,499
●世帯数 3,057

ごみの量

1月31日現在

- 可燃ごみ 122.10t (+10.10t)
- カン・ペットボトル 2.73t (-0.56t)
- びん 3.98t (-1.13t)
- 古紙他 15.62t (-3.99t)
- 可燃粗大 2.11t (-0.92t)
- 不燃 6.09t (-1.24t)
- プラスチック製容器包装 2.15t (+0.36t)
- 紙/パック、白色トレイ 0.05t (±0.00t)

3月の表紙

表紙の写真は、巢雁山(459m)山頂から望む風景です。

空気が澄んだ日には山口県や大分県姫島村まで見え、その絶景は正に地域の宝です。

Photo 上毛町フォトクラブ
釘丸 雅樹さん

http://www.town.koge.lg.jp

環境対応型植物油インキ
を使用しております。

有田地区グリーンツーリズム研究会 副会長



屋号
日満荘
高橋 誠さん

周防灘を見下ろす風光明媚な絶景を楽しんでください。

有田地区グリーンツーリズム研究会 会長



屋号
かんの
小川 清美さん
愛子さん

自作の小屋での楽しいひと時を...



屋号
すみんちゅう
中尾 健さん
園美さん

風と星と海を満喫してください。



屋号
きたんさこ
山本 盛文さん

自家焙煎のコーヒーを飲みながら
フォークソングでもいかが?



屋号
かさ
川上 実さん
祐美さん

愛犬めいとログハウスの木の香りを
楽しんでください。



屋号
しんたく
奥 雅樹さん
幹子さん

定年後のUターン。失敗続きの
苦労話を聞いてください。



屋号
うしろ
石井 ミナ子さん

ばーちゃんの知恵を聞いてくださ
い。



屋号
なか
中野 美好さん
ハル子さん
徳三さん
千代美さん

四世代大家族とのだんらんをたの
しんでみては?



屋号
祭り人の家
山下 朗さん
祐子さん

田舎ならではの体験を楽しんでく
ださい。



屋号
しも
中島 安弘さん
美由紀さん

愛犬パピーに会いに来てくださ
い。



屋号
でやしき
中島 保男さん
美智子さん
元文さん
利恵さん

若夫婦と楽しい一時をどうぞ。



屋号
友遊山荘
秋吉 維光さん
美津恵さん

五右衛門風呂あります。



屋号
朝ぎり荘
伊藤 光則さん
美喜子さん

自慢の岩風呂と葉釜飯を堪能して
ください。



屋号
たに
谷口 正見さん
美智恵さん

ゆっくりのんびりしてください。



屋号
みせ
酒井 昭治さん
榮美香さん

田舎の昔話を聞きながら夜景を
楽しんでください。



屋号
うよく
北村 尚哉さん

夜景もまた格別ですよ。

こうげ
KOGÉ absolute peach
素敵人

グリーンツーリズムの
舞台として、
まちの魅力を全国に発信

地元の資源を最大限に活用した都市との交流を行い、有田地区の活性化を目指す「有田地区グリーンツーリズム研究会」。都市から自然との親しみを求めて訪れる方を受け入れ、まちの魅力を発信しています。
農村民泊受け入れ家庭として活動を行っているみなさんを紹介します。



こんにちは。企画情報課の穴田大介です。

編集後記

早いもので年が明けてもう3月を迎えます。季節はちょっとずつ冬の寒さを越えて、春を感じる季節へと変わり始めています。

昨年3月、日本中を震撼させた東日本大震災からまもなく1年が経とうとしています。

被災地では、いまだ癒えない傷を抱えながらも、時間の経過と共に復興に向け、一歩ずつ進んでいるように思われます。一方、復興が進むにつれて現地で求められていることは徐々に変化し、多様化しているようです。

私たちは、一人ひとりが「私たちにできること」を常に考え、被災地に継続的な支援をしていかなければなりません。また、支援だけでなく、私たち自身の防災・減災へ向けた取り組みも進めていかなければなりません。大切なことは、震災を「風化させない」こと、そして「学び・伝えていく」ことだと思います。